

「台湾フィールド・ワーク 2023」 募集要項

1. 趣旨

2017年10月1日に台湾教育部(文科省に相当)と九州大学が共同で開設した台湾スタディーズ・プロジェクトの一環で行っている授業での知識を元に、現地での実習を行い、台湾の文化、政治、歴史についての理解を深める。

2. 応募資格、募集人数

九州大学の正規課程の学部生で、台湾の文化、政治、歴史、人権、民主主義等に興味があり、台湾の大学間協定校の学生との学術交流に関心のあるものを 10名程度 募集する。

3. 派遣先大学及び派遣先機関 (予定)

【台北】国立台湾大学、国立台湾師範大学、228 事件記念館、景美人権文化園區、総統府、希望ないし専攻に応じて選択: 総統府、台湾民主基金会、LGBT 関連 NGO、阿嬤家(女性と人権博物館)、婦女新知基金会、故宮博物館、鄭南榕記念館など。

【花蓮】七脚川事件記念碑、山下基地、吉安慶修院、花蓮考古学博物館、木瓜溪、新城神社(天主堂)、太魯閣国立公園など。

※なお、施設見学に際しては、必ず教員や中国語が話せる現地スタッフが付き添い安全確保を行う。
東京大学のトライリンガルプログラムの学生、教員との合同プログラムでもある。

4. 日程 2024年2月16日(金)～2月23日(金)(7泊8日)

5. スケジュールと研修内容 (予定)

2/16 (金)	【お昼頃】福岡⇒台北 台湾桃園国際空港到着後、鉄道で花蓮へ移動。 東大のトライリンガルプログラムの学生さんと合流。	[花蓮泊]
2/17 (土)	【終日】七脚川社事件(チカソワン事件)(注1)や吉野村に関わる場所を巡る。七脚川事件記念碑、山下基地、吉安慶修院、花蓮考古学博物館、木瓜溪、「頭目の家」ほか <ul style="list-style-type: none">● 昼食を挟んでのワークショップは花蓮県寿豊郷農社区發展協会、阿魯巴染部落手作室、台湾原住民七脚川溪口部落發展協会の人たちと実施。● 午後から夜にかけて、「頭目の家」で頭目の息子から七脚川について語ってもらう。阿美族のダンスも学ぶ。夕食は「頭目の家」にて。	[花蓮泊]
2/18 (日)	【午前】新城事件(注2)に関わる場所を巡る(新城神社(天主堂)、太魯閣国立公園ほか) 【午後】「基地文化」の台湾原住民(タロコ族)の若手研究者(司法、文化研究、健康、美術教育)やアーティストとの交流会 <ul style="list-style-type: none">● 新城神社から太魯閣国立公園までは「基地文化」によるバスツアー(ガイドはタロコ族の若手研究者が務める)	[花蓮泊]

2/19 (月)	【午前】花蓮から鉄道で台北に移動。 【午後】228 記念館、景美人権文化園區（白色テロの歴史について学ぶ）	[台北泊]
2/20 (火)	【午前、午後ともに】各自の興味のあるテーマについてグループに別れ調査。東京大学トライリンガルプログラムの学生、九州大学の学生の調査のサポートとして台湾大学と淡江大学の学生さんが数名付き、教員とともに行動。 <u>(注3)</u>	[台北泊]
2/21 (水)	【午前、午後ともに】各自の興味のあるテーマについてグループに別れ調査。東京大学トライリンガルプログラムの学生、九州大学の学生の調査のサポートとして台湾大学と淡江大学の学生さんが数名付き、教員とともに行動。 <u>(注3)</u> 夜は夜市など。	[台北泊]
2/22 (木)	【午前】午後の発表に向けて準備 【昼食】在台日本メディアの支局長をお招きして昼食を食べながら、意見交換会。 【午後】日本人学生と台湾人学生の交流会。 (台湾側、日本側ともに発表を行う。)	[台北泊]
2/23 (金)	台北⇒福岡 午前中の便で帰国。	

注1)七脚川社事件(チカソワン事件):1908年12月、日本統治時代の台湾花蓮港庁チカソワン(現在の花蓮県吉安郷)で発生した、台湾原住民アミ族の暴動事件。日本の官憲からの待遇に不満を抱いたアミ族が蜂起するものの、鎮圧。

注2)新城事件:1989年12月、日本統治時代の花蓮県新城郷で発生した日本の官憲と台湾原住民タロコ族との衝突事件。

注3)20日、21日のグループワークは参加する学生の希望を聞きながら訪問先を決める。

参考までに去年の訪問先は、

一日目

【台湾同志 ホットライン協会】https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/205/

【台湾ジェンダー平等教育協会】https://taiwan-shugakuryoko.jp/spot_north/218/

二日目博物館チームと街歩きチームに別れる。

【博物館】故宮/台湾歴史博物館/順益原住民博物館

【街歩き】龍山寺、台湾博物館鉄道部園區、迪化街、新芳春茶行(お茶博物館)、臺灣新文化運動紀念館、文萌楼、阿嬤家-和平與女性人權館

6. 大学の支援内容と自己負担内容

フィールドワーク全体でかかる費用(交通費、宿泊費等を含めて)は 15 万円程度を想定している。参加する学生に、一部支援あり(6 万円程度)(※注意)。宿泊場所は、大学のゲストハウスもしくはホテルを予定。その他必要経費は全員自己負担。(例:海外旅行保険、パスポート取得料金(未取得の場合)、現地での個人的な飲食費、雑費等)

なお、海外旅行保険は、学研災付帯海外留学保険(略称:付帯海学)に必ず加入しなければならない。加入方法は、派遣候補者決定後に参加申請書記載の E-mail アドレス宛に通知する。

※注意: 日本学生支援機構(JASSO)奨学金 (6名:選考あり)

(申請条件)

- 令和 4 年度の学業成績が、JASSO が定める成績評価係数で 2.3 以上の者
- また、JASSO が定める家計基準を満たす者は、6 万円の奨学金とは別に「渡航支援金」を受給することができる。

※自身の成績評価係数や渡航支援金の受給資格の有無については、人文社会科学系学務課(人環・教育担当)に確認すること。

7. 申請方法と期限

- 申請期間: 2023 年 11 月 22 日(水)~11 月 30 日(木) (①と②の提出期限)

➤ 申請書類:

- ① 「台湾フィールド・ワーク 参加申請書」
- ② 「台湾フィールド・ワーク 志望理由書」
- ③ 海外渡航届

以下、JASSO 奨学金申請書類(受給対象者のみ)(締め切り:12 月 12 日)

- ④ 様式 H-1(留学前回答の部分記入ください)
- ⑤ 所得を証明する書類として、あなたを扶養している保護者の方の「2022 年中の、市区町村役場発行の所得証明書(写し可)」
- ⑥ 保護者の方が給与所得の場合→「源泉徴収票の写し」
保護者の方が給与所得以外の場合→「確定申告書(第一表と第二表)(控)の写し」
- ⑦ JASSO 奨学金を受け取りたい口座の、預金通帳の写し→表紙と、表紙を開いた 1 ページ目のコピー(PDF など)。

※渡航支援金の受給を希望する学生は、追加の書類が必要なため、早めに人文社会科学系事務部学務課(人環・教育担当)に問い合わせること。

➤ 申請方法

上記書類を指定の方法で下記提出先に提出すること。

①、②:台湾スタディーズ・プログラム(台湾 SP) (kyudaitaiwanstudies@gmail.com) に送付すること。

③~⑦:人文社会科学系事務部学務課(人環・教育担当)

下記 URL にアップロードし、(jbkkyomu1ed@jimu.kyushu-u.ac.jp)宛にアップロードした旨を連絡すること。

アップロード URL:

<https://archive.iii.kyushu-u.ac.jp/public/XiYtAyZJo6BP4LSFzpcUKR12Lzt6t4r5zpnvX4m7PsbU>

※ファイル名の冒頭に学生番号を入れてください。

例「1ED00000A_様式 H-1.xlsx」

※JASSO 奨学金申請締め切りの都合により、申請期限まで時間的余裕がないので注意すること。

8. 選考

「参加申請書」、「志望理由書」をベースに選考の上、JASSO 奨学金受給候補者、派遣候補者を決定する。なお必要に応じて面接を行なう場合がある。選考結果は締切後数日以内に参加申請書記載の E-mail アドレス宛に通知する。JASSO の奨学金受給候補者になった学生は、は JASSO の奨学金申請書類を学務課まで提出する。(12月12日締め切り)

9. 事前学習

台湾 SP 関連の授業を受けていない学生に関しては、フィールドワークの前に授業をできるだけ受けること(履修もしくは聴講)。参加予定の学生は後日日時を設定する事前学習を義務付ける。(東京大学が行う事前授業(オンライン)に関しても日程をお知らせするので、参加できるものは参加すること。)

<参考:台湾スタディーズプログラム関連授業>

基幹教育科目「台湾事情」(1単位):授業担当:蕭耕偉郎、エドワード・ヴィッカーズ

12月9日、10日、16日、17日に開講。(赤松美和子(大妻女子大学)、魚住悦子(天理大学)、上水流久彦(県立広島大学)、渡邊義孝(尾道市立大学)の四人によるオムニバス授業で全てオンラインで行う。(原住民や日本統治時代の建築物に関連する講義なのでFW参加希望者はできるだけ受講もしくは聴講すること。)

教育学部専攻教育科目「国際教育論 I」(2単位):授業担当:菅野敦志(共立女子大学)

2月6日(火)から10日(土)に開講。履修方法は、教育学部 HP お知らせで確認のこと。

10. 単位認定

本事業「台湾フィールド・ワーク」は、教育学部専攻教育科目の「Overseas Fieldwork II (1単位)」として単位認定を行う。

なお、学部一年生が参加した場合の単位認定は行わないものとする。

また、本事業により認定された単位を自身の卒業要件の単位に含めることができるかどうか不明な場合は、各自で所属する学部の教務担当係に確認すること。

11. その他

- 奨学金を申請する場合は早め早めに行動すること。
- 記入がわからない場合、参加に際しての心配事などがある場合などに対して事前の相談用オフィスアワーを設けるので、前原までメールでアポイントメントを取る。 (maehara.shiho.030@m.kyushu-u.ac.jp)

12. 提出先・問い合わせ先

- ・「台湾フィールド・ワーク 2023」全般について

台湾スタディーズ・プログラム(台湾 SP)担当 前原: (maehara.shiho.030@m.kyushu-u.ac.jp)

- ・日本学生支援機構(JASSO)奨学金、海外渡航届について

人文社会科学系学務課(人環・教育担当):

窓口:イースト1号館1階 E-C-108

TEL:092-802-6362 E-mail: jbkkyomu1ed@jimu.kyushu-u.ac.jp

令和5年11月1日

保護者各位

「台湾フィールド・ワーク 2023」における本学学生の
短期研修についてのご理解のお願い

拝啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

私たち九州大学教育学部では、本学の国際化の計画に基づき、本プロジェクトが持つ台湾での多様なネットワークを活用しながら、「台湾フィールド・ワーク 2023」を実施することとなりました。九州大学台湾スタディーズ・プロジェクトは2017年10月に台湾の教育部（文科省に相当）と九州大学が共同で開設したもので台湾の社会、歴史、文化などを学ぶ授業をおこなっており、今年で7年目を迎えるプロジェクトです。台湾フィールド・ワークは授業での知識を元に現地で研修を行うもので2018年の3月に第一回がパイロット版として実施されたあと、これまで計3回の研修実績がございます。

今年度は2月16日（金）から2月23日（金、祝）までの7泊8日、台北市、花蓮市を訪れます。花蓮では、七脚川事件記念碑、花蓮考古学博物館、木瓜溪、太魯閣国立公園などを訪問し、台湾の先住民族であるアミ族、タロコ族の方やその文化継承、保存に携わられている政府機関の方々からお話を伺います。台北では台湾が現在の民主的な、そして人権を重んじる社会になるまでの歴史について学ぶため、228 記念館、景美人権文化園区などを訪れます。台湾といえば、漢民族文化の印象がございますが、実際は漢民族以外にもさまざまな民族が共存する多民族国家となっています。その一旦を学生には滞在中感じ取ってもらえればと思っております。

また、その他の訪問先などの内容に関しましては添付の募集要項をご覧ください。

このフィールドワーク実施にあたりましては、本学から教員が2名、その他毎年東京大学のトリリンガルプログラムと合同での研修をおこなっている関係から東大の教員1名と学生、台北では各訪問先を現地の台湾人学生と共に行動いたします。本事業に参加する学生には学生教育研究災害障害保険の付帯海外留学保険に加入することを義務付けておりますし、保険加入並びに保護者の承諾がない場合は台湾研修には参加できないこととなっております。引率する教員も万全を期して対応する所存です。

保護者の皆様のご理解とご協力のほどお願い申し上げます。

謹白

九州大学教育学部長

橋 彌 和 秀

【本件お問い合わせ先】

九州大学台湾スタディーズ・プロジェクト担当：

Edward Vickers

前原 志保